練馬区「アニメ産業と教育の連携事業」
平成２４年度事業推進報告書

平 成 ２ ５ 年 ３ 月

練　馬　区

はじめに

日本のアニメーション（以下、「アニメ」という。）発祥の地であり、アニメ関連企業最大の集積地である練馬区では、平成21年1月に「練馬区地域共存型アニメ産業集積活性化計画」を策定し、平成21年度から、「アニメ産業と教育の連携事業」を推進しています。

この事業は、小中学校の教員、アニメ事業者、学識経験者、区関係職員等によって構成されるアニメ産業と教育との連携に関する検討会議によって推進され、平成23年度までに小中学校での授業プログラムの開発、授業の実施、教員向け教育プログラム紹介冊子（ティーチャーズガイド）等の成果を重ねてきました。着実に関係者のネットワークが構築され、子供たちがアニメと向き合い豊かに楽しく学ぶ姿が広がっています。

平成24年度は、事業をさらに発展させ、プログラムを質量ともに充実させ、運営の体制を整備し、関係者のネットワークをさらに充実させることが目指され、多くの方々の努力のもとでこれまで以上に充実した活動が展開されました。こうした状況に対応して、継続的に「プロジェクト通信」が発行され、各学校での取組が関係者に共有されるようになっています。

このように、アニメ産業と教育の連携事業は、日本のアニメ発祥の地にふさわしい取組として着実に広がり、成果を重ねています。喜ばしいことに、平成24年度、経済産業省から「第3回キャリア教育アワード」の大賞を、そして文部科学省からは「キャリア教育推進連携表彰」の奨励賞をいただくこととなりました。全国各地に取組の成果を発信していくことが、これまで以上に求められていくことと考えられます。

これまでの実践の成果の一つとして、子供たちのアニメーション作品が少しずつ蓄積されていることが挙げられます。数秒程度の短いものが中心ですが、どの作品にも子供たちの丁寧な作業やユニークな発想がうかがわれ、区内のイベントやウェブサイト等を通して多くの方々に楽しんでご覧いただけるものとなっています。こうした子供たちの作品が、地域の文化を支えるものとなってくれることが期待されます。

ご協力くださった皆様に感謝申し上げ、今後も引き続いてご支援いただくことをお願いいたします。

平成 25 年3月

アニメ産業と教育の連携事業　検討会議
監修　藤川大祐
（千葉大学教育学部教授）

＜目次＞

１【背景】これまでの事業成果
１－１. 平成21年度の活動と成果 ……1
１－２. 平成22年度の活動と成果 ……1
１－３. 平成23年度の活動と成果 ……2
２ 平成24年度の重点実施項目
２－１. 到達目標 ……3
２－２. 実施内容 ……3
３ 実施内容とその成果
３－１. 運営体制づくり ……4
３－２. 教育プログラムの普及 ……7
３－３. 学校・教員間のネットワーク支援 ……10
３－４. アニメ産業界のネットワーク構築 ……12
３－５. 事業意義の理解促進 ……14
４ 平成25年度の展開の方向性
４－１. 運営体制の整備 ……17
４－２. 授業実施サポート ……18
４－３. 教員向けサポート施策 ……18
４－４. アニメ産業界向けサポート施策 ……18

【資料】各学校の実施状況 ……20

※注）本報告書内に記載されている名称・所属・肩書きなどは全て平成25年3月現在のものです。

1【背景】これまでの事業成果

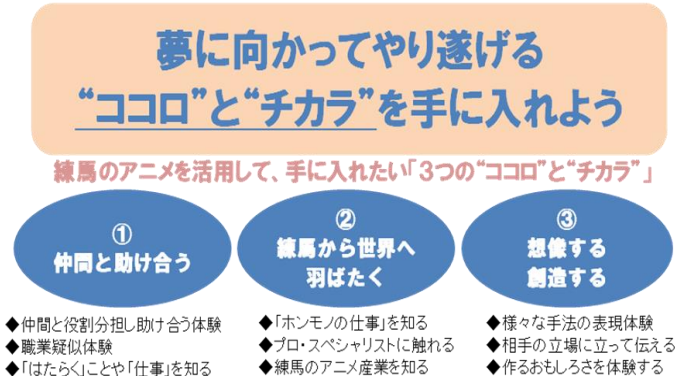
本章では、平成21年度から平成23年度までの本事業の取組とその成果を整理する。

1－1. 平成21年度の活動と成果

持続可能な事業実施計画策定に向け、先行事例および実態調査の実施を行い、これら調査を検討材料としながら、事業目標の検討を行った。事業目標の検討にあたっては、アニメ産業界・教育関係者など多様な立場から検討を行い、共通目標として「練馬の子供たちにどうなってほしいと願うのか」を議論してきた。

子供たちの「生きる力」を育むために実施することを基本的な目的とし、子供たちがアニメを活用した学習を通じて、「夢に向かってやり遂げる“ココロ”と“チカラ”を手に入れる」ことを目標とした。さらに、夢に向かってやり遂げるために、子供たちに手に入れてほしい「“ココロ”と“チカラ”」として「仲間と助け合う」「練馬から世界へ羽ばたく」「想像する、創造する」の3点を掲げ、事業の目標とした。この目標をもとに、ベースとなる基本教育プログラムの作成を行った。

【子供たちへのメッセージ】



1－2. 平成22年度の活動と成果

平成21年度に検討してきた事業目標をもとに、さらに練馬区のアニメのもつ価値を「アニメ産業のもつ価値・誇り」「文化としてのアニメの価値」の2点から再整理を行った。学校における学習活動の実態を踏まえながら、教育効果の側面からの検討を行い、教員にも理解しやすい方向性を見い出してきた。

また、平成21年度に作成した基本教育プログラムを活用しながら、小学校2校・中学校1校において検証授業を実施した。「キャリア教育としての効果」「地域への誇りと愛着心を育てる効果」「地域産業としてアニメ産業を理解する効果」を確認することができた。これらの検証授業を通し、アニメを活用した教育プログラムが具体的にどのような学習効果を生み出すのかについて、検討会議委員間で共通理解を得ることができただけでなく、効果を実感することができたと言える。

１－３. 平成23年度の活動と成果

平成22年度に実施した基本教育プログラムをベースにして、教育プログラムの実施校を拡大し、小学校7校・中学校3校の計10校での授業実施を実現した。実施校数が増えることにより、総合的な学習の時間・図画工作科・クラブ活動・部活動など、様々なねらいでの導入事例が生まれ、学校の個別のニーズに対応した教育プログラムの活用の可能性を見い出すことができた。

また、平成23年度の実施事例をもとに、教員向け教育プログラム紹介冊子「ティーチャーズガイド」および「概略説明用リーフレット」を作成し、各学校への配付を行った。これにより次年度に向けて教員が教育プログラムを導入しやすい下地をつくることができた。

一方で、重点的に取り組むべき課題として、以下のようなものが明らかになった。

【課題】

① 学校における授業実施環境

教育プログラムを実施するにあたって、パソコンなどの機材、ゲスト講師謝金の準備が不可欠な要素となってくるが、現在の学校環境において全てがそろうことは難しい状況である。機材に関しては事務局のサポート内容を精査して明確にすること、謝金についてはゲスト講師を引き受けるアニメ産業界側に一定の理解を得ていくことが不可欠である。

② 学校・教員間ネットワークを広げる支援の必要性

「アニメ」という分野に初めて取り組む教員がほとんどで、具体的イメージを抱きにくいことが、授業実施に踏み切れない要因になっている。既実施と未実施の学校・教員が相互に情報共有できるネットワーク構築のための支援が求められる。

③ アニメ産業界からのゲスト講師の確保・拡大に向けたネットワーク構築

アニメ産業界側としても、本業を離れて学校で授業を行うことに対するイメージを抱きにくいこと、また、多忙を極める職種であることがゲスト講師による協力の妨げとなっている。よって、できるだけゲスト講師の負担を減らし、依頼項目を明確化することが必要であると同時に、ゲスト講師として関わることの意義、得られるやりがいなどを伝えていくことが不可欠である。

④ 事業意義の理解促進

着実に実施校数が増えている一方で、区民の認知度はまだまだ低い現状がある。今後この事業を継続し定着させていくためには、保護者や地域住民をはじめ広く区民に理解を求めていくことも必要である。

2 平成24年度の重点実施項目

2－1. 到達目標

平成23年度までの活動と成果から見い出した課題を受け、平成24年度は以下のように、5つの視点から到達目標を定めた。また、それぞれの指標として、どのように成果を測るかを明らかにした。

① 運営体制づくりに関して
【目標】運営体制確立までのロードマップができていること
【指標】検討会議の開催／運営マニュアルなどの整備

② 教育プログラムの普及に関して
【目標】学校のニーズに合わせ、児童生徒・教員双方の満足度が向上すること
【指標】事後アンケートによる評価

③ 学校・教員間のネットワーク支援に関して
【目標】本事業を認知し、興味を示す教員が増えること
【指標】実施校数15校（新規5校以上）／研修会等への参加教員数増

④ アニメ産業界のネットワーク構築に関して
【目標】授業実施の際の協力者（ゲスト講師／サポート人材）が増えること
【指標】参加ゲスト講師数10名

⑤ 事業意義の理解促進に関して
【目標】教育関係者・アニメ産業界だけでなく、広く区民の目に触れる機会をつくること
【指標】広報への掲載・作品発表会等の機会の創出

2－2. 実施内容

上記到達目標を達成するため、平成24年度の実施内容を以下のとおりとした。

① 運営体制づくり
今後の運営体制を検討する検討会議を開催するほか、各種マニュアル類を整備する。

② 教育プログラムの普及
区内小中学校へのニーズ・意向調査実施後、授業の実施校を決定する。
教員の学習目標設定などに対して支援を行い、授業当日の実施サポートも行う。

③ 学校・教員間のネットワーク支援
教育指導課と連携し、興味・関心のある教員を対象とした研修会などを開催する。

④ アニメ産業界のネットワーク構築
アニメ産業界向けのリーフレットを作成して配付するほか、研修会・事例発表会への参加を促す。

⑤ 事業意義の理解促進
アニメ作品の上映の場などをつくり、各種広報媒体の活用を行う。

3 実施内容とその成果

3−1. 運営体制づくり

(1)検討会議の開催

運営基盤の強化に向け、学識経験者、アニメ事業者・関係者、小中学校教員、区関係職員等により構成する「アニメ産業と教育の連携事業検討会議」を、2回開催した。

●検討会議開催の目的

「アニメ産業と教育の連携事業検討会議」を設置し、教育プログラムの普及および課題解決に向けた検討を行い、今後の継続的な運営基盤づくりに関しての提言を行うこと。

●会議の開催概要

	開催実施日	場所	検討内容
第一回	平成24年7月2日(月) 15:00～17:00	練馬区役所 本庁舎5階 庁議室	・今年度活動計画の検討 ・ディスカッション
第二回	平成25年3月4日(月) 15:00～17:00	練馬区役所 本庁舎5階 庁議室	・今年度の進捗状況報告 ・次年度に向けての方向性の検討

●第一回検討会議の内容

検討委員の交代があったため、これまでの事業経緯や学校での実施予定状況、産業界の協力状況について共有を行ったのち、今年度活動計画について検討を行った。

その後、今後の運営体制・基盤構築に関するディスカッションを行った。ディスカッションテーマは以下の3項目とし、ワールドカフェ(テーマごとにグループを変えて話し合う)形式で、より多くの委員間での意見交換が行われるようにした。

【テーマ】

①練馬の子供たちのために、アニメを活用して“できたらいいこと”
～ 教育資源としてのアニメとは？ ～

②他の教員、ゲスト講師、区民と情報共有するためのアイデア
～ たくさんの人に知ってもらうには？ ～

③この取組をもっといいものにするために、どんなことが必要？
～ こうなったらもっと楽しくなる！ ～

【ディスカッションで抽出された課題・アイデア】

◇広く区内外へ情報発信していくために

・子供たちのアニメ作品の発表の場の創出
・メディアを積極的に活用した効果的な広報
・学校内への周知の必要性

◇今後の体制構築に関して

・授業プログラム、教材の整備改修、サポート業務等のフォーマット化、効率化

・産業界へのネットワーク構築の強化

・機材備品の整備

●第二回検討会議の内容

今年度のまとめとして、学校での実施状況に関する報告、産業界のネットワーク構築・協力状況に関する報告、各種広報活動に関する報告を行った。昨年度と比較すると、19校と多くの学校に広めることができたこと、特に広報活動は、練馬アニメカーニバルでの作品上映、NHK 首都圏ネットワークでの放映、キャリア教育アワードの受賞等、より多くの活動が行われた成果が確認された。

教員向けの研修会の実施の成果として、「教員自身がアニメ産業の理解、アニメ産業のもつ価値の理解を深めることができた。」「子供たちにどのようによりよい教育の場が実現できるかを考えるきっかけとなった。」との意見があり、アニメ産業界・学校それぞれが理解し合い連携することで、教育プログラムとしての効果が発揮されることが確認された。

一方、アニメ産業界にとっても、キャリア教育アワード等でその価値が認められたことは、企業内・産業界の中で取組の意義を広報しやすくなるとの意見が出ており、今年度の活動成果を活かし、学校・アニメ産業界それぞれのネットワークを強化する方向性が確認された。

(2)運営手順書の作成

持続可能な事業運営を目的として、運営主体が変わったとしても、スムーズな事業実施ができるように、今年度の実施状況をもとに運営のノウハウを運営手順書にまとめた。

(3)検討会議委員名簿(順不同、敬称略)　　(平成25年3月現在)

氏名	所属等
藤川　大祐	千葉大学教育学部　教授
齊藤　裕人	日本大学芸術学部映画学科　教授
高柳　　誠	練馬区立石神井東小学校　校長
稲村　望	練馬区立石神井東小学校　教諭
藤江　恵子	練馬区立関町北小学校　主任教諭
内村　弘毅	練馬区立大泉東小学校　教諭
晴佐久　和彦	練馬区立光が丘第四中学校　校長
黒田　一三	練馬区立大泉第二中学校　副校長
近藤　智春	練馬区立旭丘中学校　教諭
大出　幸夫	東京学芸大学附属大泉小学校　教諭
石黒　　竜	練馬アニメーション協議会　代表幹事 株式会社動画工房　代表取締役
吉岡　　修	練馬アニメーション協議会　顧問
遊佐　かずしげ	練馬アニメーション協議会　幹事 有限会社メビウス・トーン　代表取締役
阿部　　学	NPO 法人企業教育研究会　理事
市野　敬介	NPO 法人企業教育研究会　事務局長
吉田　裕典	株式会社トモノカイ　教育人材サービス部門
三沢　亘潤	練馬区教育委員会事務局 教育振興部教育指導課　指導主事
米　　芳久	練馬区産業経済部　商工観光課長

3−2. 教育プログラムの普及

（1）概要

学校における授業実施状況は以下のとおりである。

●実施学校数：19校（昨年度比9校増）

※小中一貫教育校はそれぞれ小学校・中学校でカウント　＊1校は計3学年での実施

	総数	既存	新規
小学校	14校＊	6校	8校
中学校	5校	−	5校
合計	19校	6校	13校

●受講児童・生徒数：712名

	総数	既存	新規
小学校	624名	318名	306名
中学校	88名	−	88名
合計	712名	318名	394名

●導入科目　＊1校は計3学年での実施

科目	小学校	中学校
総合的な学習の時間	3校＊	1校
図画工作科	1校	−
クラブ活動（小学校）	10校	−
部活動（中学校）	−	4校

●実施学年

学年	学校数
小学校3年生	1校
小学校4～5年生	1校
小学校5年生	2校
小学校6年生	2校
小学校4～6年生ほか（クラブ活動）	10校
中学校1～3年生	5校

平成23年度と比較して実施校数が大きく増え、教育プログラムを通してより多くの児童・生徒が「アニメ」に触れる機会をつくれたことは今年度の大きな成果と言える。また、昨年度と比較すると、小学校3年生・5年生での実施が実現しており、総合的な学習の時間や図画工作科のほか、社会科との連携の可能性も見えてきた。

また、上記のうち小学校二校では、平成23年度に引き続き、授業を通して制作されたアニメ作品をアヌシー市（区とアニメ産業交流協定を締結しているフランスの都市）へ送るなどの活動が展開され、国際理解・異文化理解をねらいとした活用も行われた。

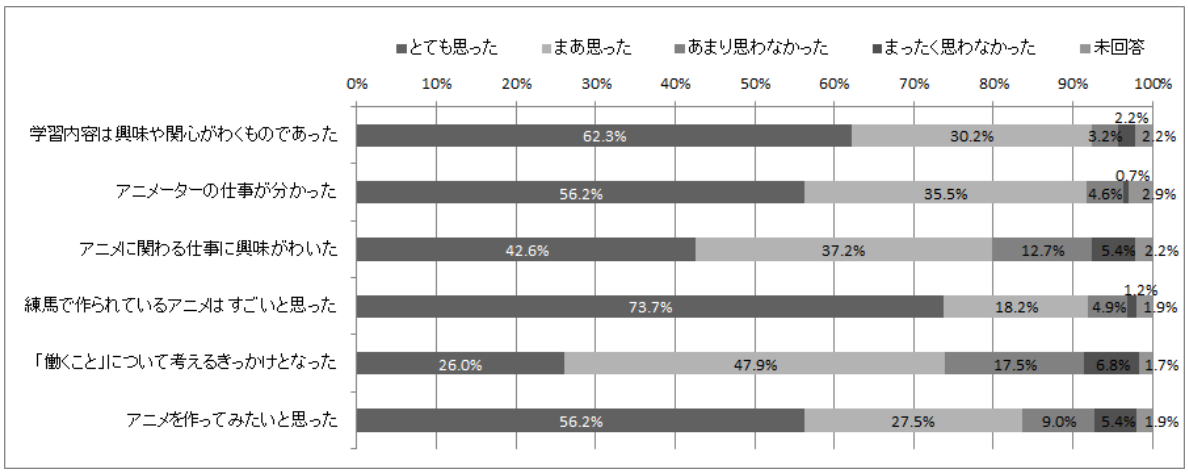
(2)実施校一覧

	科目	学校名	学年	人数	時間数	ねらい
小学校	総合的な学習の時間	石神井東小学校	3年	64名	7時間	自ら課題を設定し、調べ、発表することを通して、練馬のアニメ産業・アニメの仕事についての理解を深める。
			5年	68名	10時間	地域産業に興味をもつ。プロとの出会いを通して自分の生き方について考える。
			6年	53名	17時間	地域にある産業についての理解を深める。役割を担う責任感を実感する。他者との協調性を身に付ける。
		大泉西小学校	6年	72名	15時間	事実等を正確に理解し、他者に適切に分かりやすく伝える力を身に付ける。考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させる体験をする。
		東京学芸大学附属大泉小学校	4-5年	20名	22時間	アニメ文化の再発見・相手意識・責任感・国際理解。
	図画工作科	大泉小学校	5年	64名	15時間	地域への理解と愛着を深める。表現を通じてアニメーションの仕組みを理解し協力して作るよさを体験する。
	クラブ活動	早宮小学校	5年	95名	7時間	動くおもしろさを知る。作る楽しさを知る。
		田柄第二小学校	4-6年	30名	1時間	自分たちでもアニメが作れる・できる感覚を味わう。
		関町北小学校	4-6年	30名	2時間	動くおもしろさを知る。作る楽しさを知る。
		下石神井小学校	5-6年	16名	1時間	作る楽しさを知る。アニメーターの仕事を知る。
		谷原小学校	4-6年	20名	5時間	作る楽しさを知る。アニメーターの仕事を知る。
		大泉東小学校	4-6年	21名	8時間	動くおもしろさを知る。作る楽しさを知る。
		大泉北小学校	4-6年	32名	1時間	アニメーションへの理解を深める。動かす喜びを知る。
		大泉学園小学校	4-6年	10名	6時間	動くおもしろさを知る。作る楽しさを知る。
		南田中小学校	4-6年	16名	1時間	作る楽しさを知る。アニメーターの仕事を知る。
小中一貫教育校	クラブ活動・部活動	大泉桜学園 大泉学園桜小学校	5-8年	13名	1時間	プロの仕事の「すごさ」を実感する。
		大泉桜学園 大泉学園桜中学校	5-8年	13名	1時間	動くおもしろさを知る。作る楽しさを知る。
中学校	総合的な学習の時間	光が丘第一中学校	1-3年	30名	2時間	専門的な知識や技術について体験的な学習をする。
	部活動	豊渓中学校	1-3年	11名	1時間	作る楽しさを知る。アニメーターの仕事を知る。
		石神井中学校	1-3年	24名	3時間	作る楽しさを知る。アニメーターの仕事を知る。
		大泉第二中学校	1-3年	10名	1時間	作る楽しさを知る。アニメーターの仕事を知る。

(3)学習効果について(アンケート集計結果)

授業実施校のうち、アンケートを実施した学校の全体評価は以下のとおりである。

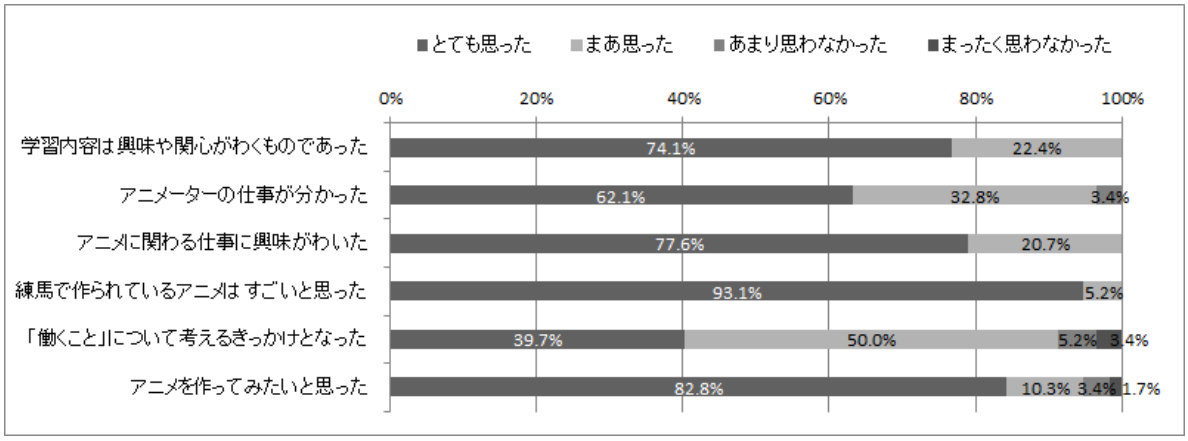
【アンケート実施校全体評価(アンケート総数=411人、小学校8校・中学校3校)】



中でも、学習のねらいをより明確に設定していた学校については、とくに高い学習効果がみられ、特に「アニメーターの仕事が分かった」「練馬で作られているアニメはすごいと思った」について、他校より高い成果が出ている。

学校名	石神井東小学校				
実施日	11月15日(木)				
担当教員	世取山喜代子・下地亮平				
科目	総合的な学習の時間	講師	東映アニメーション(スタジオ見学) 遊佐かずしげ(メビウス・トーン) 村松錦三郎(元虫プロダクション)		
学年	3年生	人数	64名	時間数	7時間
授業のねらい	自ら課題を設定し、調べ、発表することを通して、練馬のアニメ産業・アニメの仕事についての理解を深める。				

【石神井東小学校3年生アンケート結果(アンケート総数=58人)】



3−3. 学校・教員間のネットワーク支援

（1）概要

●教員向け研修会などの開催

教員向けの研修会を以下のとおり開催し、ゲスト講師による授業見学、昨年度の事例紹介、簡単なアニメの制作体験を行うことで、事業および教育プログラムへの理解を深めることができた。また「自分の描いたアニメが動く！」という、アニメそのもののおもしろさ・感動を教員自身が体感する機会となった。

◇教員向け研修会（研修100選）

教育指導課と連携して「研修100選」に位置付け、夏休み期間中に実施した。若手教員を中心に約25名が参加した。

◇事例発表会（研修100選）

大泉東小学校のクラブ活動における実践の見学、担当教員による事例発表を行った。上記と同じく「研修100選」の位置付けで実施し、大泉東小学校教員も含め約20名が参加した。

◇中学校教育研究会（美術科実技研修）での事業紹介

事業紹介の他、ゲスト講師による授業の実演、パラパラアニメの制作体験を行った。中学校の美術科教員約30名が参加した。

●プロジェクト通信の配信

教育プログラムを実施する学校を中心に、本事業の活動状況を共有するために情報配信を行った。9月から翌3月の間に合計7回発行した。

●ティーチャーズガイド（改訂版）の制作

平成24年度の取組の状況・課題を受け、平成23年度に制作したガイドの改訂を行った。学校が次年度の教育課程検討を行う時期に開催された校長会において「ダイジェスト版」を配付し、平成25年度に向けた活動の検討資料とした。

※本編は平成25年度当初に全校へ配付予定。

（2）各施策の詳細

●教員向け研修会（研修100選）

実施日	平成24年8月29日（水）
会場	練馬区役所　本庁舎20階交流会場
参加者数	約25名
内容	教育資源としてのアニメ産業の可能性を理解すること、学校外人材、外部資源の活用方法・協働の仕方を知ることを目的に、本事業の紹介のほか、実践校の事例発表、パラパラアニメの制作体験、アニメ加工ソフトの使用体験を行った。
	【当日のプログラム】 ◆練馬区のアニメ産業の概況

	◆アニメ産業を活用した教育プログラム事例と実績 ・実践校の学習指導案（教育プログラム内容）の紹介 （事例発表：石神井東小学校教諭　　山岡恭子 関町北小学校主任教諭　藤江恵子） ・子供たちの作品上映 ◆アニメ制作、アニメに関する職業のミニ体験 （講師：メビウス・トーン　遊佐かずしげ）

●事例発表会（研修100選）

実施日	平成24年11月19日（月）
会場	大泉東小学校
参加者数	約20名
内容	アニメ制作を行ったクラブ活動の公開授業を見学したのち、担当教員による事例発表、アニメ産業界も含めた参加者の意見交換を行った。また、アニメ加工ソフトの使用が可能なブースを設置し、興味のある教員には使用体験をしてもらった。
	【当日のプログラム】 ◆公開授業（科目：クラブ活動　講師：動画工房　平松岳史） ◆事例発表（大泉東小学校教諭　内村弘毅） ◆意見交換 ◆アニメ加工ソフトの使用体験

●中学校教育研究会（美術科実技研修）での事業紹介

実施日	平成24年6月20日（水）
会場	石神井東中学校
参加者数	約30名
内容	中学校の美術科教員の研究部会に参加し、本事業の活動内容を紹介したのち、ゲスト講師による模擬授業体験を実施した。その後、授業での活用の可能性に関して意見交換を行った。
	【当日のプログラム】 ◆練馬区のアニメ産業についての紹介 ◆アニメ産業と教育の連携事業に関しての紹介 ◆教育プログラムについて ◆模擬授業体験（講師：動画工房　平松岳史） ・会社紹介、アニメーターの仕事紹介 ・パラパラアニメ制作体験 ・質疑応答

●プロジェクト通信の配信

	発行日	内容
1	6月18日	・今年度の実施希望状況報告 ・今後の予定（授業・検討会議）について
2	9月11日	・教員向け研修会実施報告 ・今後の授業日程
3	10月3日	・授業実施報告 （大泉学園小学校・大泉小学校・南田中小学校・豊渓中学校） ・今後の授業日程
4	11月6日	・授業実施報告 （大泉桜学園大泉学園桜中学校・大泉西小学校・関町北小学校・谷原小学校） ・今後の授業日程
5	1月15日	・授業実施報告 （大泉東小学校・石神井東小学校・関町北小学校） ・練馬アニメカーニバル　上映報告 ・今後の授業日程
6	2月7日	・キャリア教育アワード　優秀賞受賞 ・キャリア教育推進連携表彰　奨励賞受賞 ・今後の授業日程
7	3月19日	・キャリア教育アワード　最優秀賞（経済産業大臣賞）および大賞受賞報告 ・検討会議実施報告 ・今年度の活動の振り返り

●平成25年度に向けティーチャーズガイド（改訂版）の制作

平成24年度の活動を受け、より教員が活用しやすくなるよう改訂を行った。

仕様：A4判カラー18ページ

【改訂ポイント】

・ゲスト講師による授業等、様々なサポートの全体像が見えるページを追加

・指導計画を立てる際に役立つ「活用例」を提示

・ゲスト講師がどのような授業を行うのかが分かる詳細を記載

・アニメ制作の流れが分かるページを追加

3−4. アニメ産業界のネットワーク構築

（1）概要

●アニメ産業界のネットワーク構築に向け、以下のような施策を実施した。

◇ゲスト講師募集リーフレットの配付

練馬アニメーション協議会およびその他区内事業者に対してリーフレットの配付を行い、本事業に興味がある事業者や、ゲスト講師として協力したい事業者を募った。3社から新たに問合せがあり、うち1社は授業での協力が実現した。

◇教員向け研修会（研修100選）への参加案内

教員向け研修会を開催する際、併せてアニメ産業界への案内も行い、2名の参加があった。うち1名は、社員育成の視点から本事業に関心をもった事業者であり、授業実施協力が実現した。

◇事例発表会（研修100選）への参加案内

大泉東小学校で開催された事例発表会への参加案内を行ったところ、3名が参加し、実際の学校での授業の様子、教員の声など、生の情報に触れてもらうことができた。

◇プロジェクト通信の配信

希望する事業者にはプロジェクト通信を配信し、事業の進捗状況を共有することができた。

◇アニメ産業界向けガイドの新規制作

平成25年度に向けてアニメ産業界向けガイドの制作を行った。内容検討にあたっては、練馬アニメーション協議会にヒアリングを行い、産業界の抱える課題・問題意識等を聞きながら制作を行った。

●アニメ産業界の協力状況

	総数	うち新規
企業数	7社	2社
ゲスト講師数	9名	4名
のべ時間数	47時間	－

【協力講師一覧】

名前（敬称略）	所属等	担当学校数
遊佐かずしげ	メビウス・トーン	4校
平松岳史	動画工房	11校
青山充	東映アニメーション	1校
堀川和政	東映アニメーション	1校
有原誠治	元虫プロダクション	1校（2学年）
村松錦三郎	元虫プロダクション	1校
森山博幸	R．I．C	1校
神谷友美・北條真純	アニメスポット	1校

（2）各施策の詳細

●ゲスト講師募集リーフレットの配付

仕様：A4判両面カラー

内容：練馬区内に立地するアニメ制作会社を対象に、アニメ教育のゲスト講師を募る目

的で募集リーフレットを作成した。リーフレットでは、平成23年度の実績を元に、参加した子供たちの声、実際の授業の様子の写真、授業の実施方法、協力いただいたゲスト講師の方の声を紹介している。

このリーフレットは、練馬アニメーション協議会を通じて全会員への配付を行い、本事業に興味がある事業者や、ゲスト講師として協力したい事業者を募るために使用した。また、別途に練馬区内に立地するアニメ制作会社の募集にも使用した。

●アニメ産業界向けガイドの新規制作

仕様：A4 判カラー14ページ

内容：練馬区内に立地するアニメ制作会社を対象として、平成25年度のゲスト講師を募ることを目的に、アニメ産業界向けガイドを制作した。事業紹介、事業目的をはじめとして、協力いただいている各講師の紹介や、実施された授業の実績から作成した授業内容を記載した。

ゲスト講師の負担を軽減して協力を募りやすくするため、授業で使用される教材や、職種に対応した授業の流れなど、詳細な記述を掲載した。

3−5. 事業意義の理解促進

（1）概要

●広報実績

以下の広報媒体・メディアに掲載・紹介された。

◇ねりま区報・教育だよりへの記事掲載

◇NHK 首都圏ニュース（光が丘第一中学校）放映

◇ねりまほっとライン（石神井東小学校）放映

平成23年度から平成24年度にかけての取組を通して、子供たちが制作したアニメ作品という共有できる資産ができたことで、学校・教員だけでなく、広く区内外に取組を紹介することが可能となった。また、平成23年度事業の中で制作されたアニメは、練馬アニメカーニバルにおいて上映され、作品上映のみならず、本事業の取組の認知を広げる機会となった。

●表彰実績

これまでの取組が以下の表彰を受けた。

◇経済産業省主催　第3回キャリア教育アワード

・地域ネットワーク型キャリア教育部門最優秀賞（経済産業大臣賞）および大賞受賞

◇文部科学省・経済産業省主催　第2回キャリア教育推進連携表彰

・奨励賞受賞

審査員からは「地場産業を活かしてプロのすごさに子供たちが間近に触れられること」「プログラムの柔軟性・教員研修の実施など、学校での活用のしやすさ」「地域の中で連携してプログラムを構築していること」が評価されており、本事業のもつキャリア教

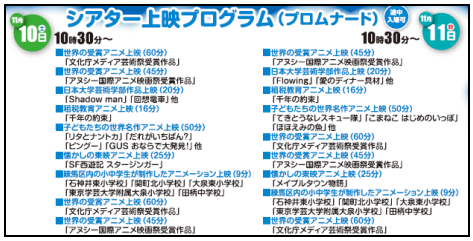
育的な価値、行政・産業界・学校との連携・ネットワーク構築の価値が明確になった。また受賞を契機に、区民や産業界にその意義の理解を促進させる機会となった。

(2)各施策の詳細

●ねりま区報・教育だよりへの記事掲載

実施日	ねりま区報(11月1日号)・教育だより(10月31日号)
内容	ねりま区報・教育だよりにおいて、本事業の活動の様子、また、アニメ産業界の思いや意義を伝えることができた。

●練馬アニメカーニバルにおける作品上映

実施日	平成24年11月10日(土)・11日(日)としまえんにて
内容	平成23年度の活動で作成された子供たちのアニメーション作品(石神井東小学校・関町北小学校・大泉東小学校・東京学芸大学附属大泉小学校・田柄中学校)を上映した。
	

●NHK 首都圏ニュース(光が丘第一中学校)放映

放映日	平成24年7月13日(金)
内容	光が丘第一中学校で行われたアニメ作品の発表会とともに、授業を受けた中学生の声が紹介された。

●ねりまほっとライン（石神井東小学校）放映　※練馬区ホームページでも公開

放映日	平成25年3月1日（金）～15日（金）
内容	石神井東小学校6年生のアニメ制作発表会の様子を取材。ゲスト講師として協力いただいた有原氏へのインタビュー等、授業の様子が紹介された。

●各種表彰

受賞日	平成25年2月19日（火）
内容	経済産業省主催の第3回キャリア教育アワードにおいて地域ネットワーク型キャリア教育部門最優秀賞（経済産業大臣賞）に選出され、さらに大賞を受賞した。また、文部科学省・経済産業省の連携による、第2回キャリア教育推進連携表彰においても奨励賞を受賞した。 ＜審査委員会による主な評価コメント＞ ・地場産業を活かし「プロのすごさ」を子供が間近に実感する機会を提供している。 ・教員向けのガイドや研修会が充実しており、プログラムにも柔軟性があるため、学校が取り入れやすいプログラムとなっている。 ・地域の中で、小学校から大学、企業、NPO　等関係者が連携しプログラムを構築している。

●文部科学省アニメ人材育成シンポジウム

実施日	平成25年2月21日（木）
内容	アニメ人材育成シンポジウムにおいて、本事業の取組事例の発表を行った。

4. 平成25年度の展開の方向性

～教育プログラムの自発的実施と産業界の協力体制の充実へ～

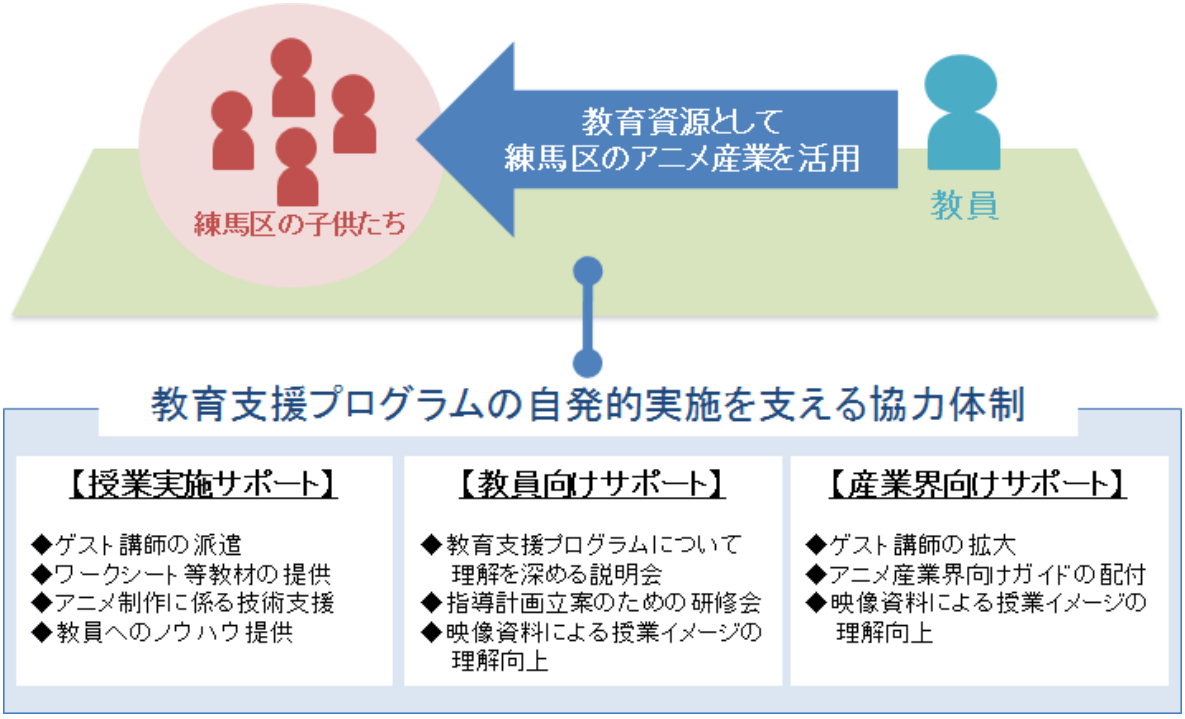
4−1. 運営体制の整備

平成21年度から4年間で運営ノウハウを積み上げてきているものの、現状ではまだ運営にかかる負荷が高く、継続的に運営できる体制には至っていない。平成25年度においては、今年度の取組の中で作成した「運営手順書」を運用し、さらに効率的な運営となるよう、運営ノウハウの整備・フォーマット化を行うことが求められる。運営体制に関しては、できる限り省力化・少人数化の方向を基本とし、ノウハウの抽出・共有化を行う必要がある。

また、学校・アニメ産業界・行政といったそれぞれ違った立場の人材が主体的に参画しながら「今後の在り方」についての検討・情報共有・ノウハウ共有を継続的に行い、各人材のもつよさ・長所を最大限かつ効率的に発揮できる協力体制を整備していくことも引き続き求められる事項である。

よって平成25年度は、授業実施、教員向けサポート、産業界向けサポートを具体的な施策として、継続的な実施運営・協力体制の構築に取り組む。また、教育プログラムの学習効果の維持・向上が大前提となることから、運営体制としては子供たちと日々向き合う学校の教員が主役であり、これまで設置してきた検討会議を中心としつつも、教員参加型で協議・検討しながら運営実施ができる体制づくりを目指す。

【運営体制イメージ】



4−2. 授業実施サポート

授業実施については、20校程度での実施を目標とし、そのうち5校以上は新規実施の学校とすることで普及を目指す。具体的なサポート内容としては、以下のとおりである。

◆ゲスト講師の派遣
◆ワークシート等教材の提供
◆アニメ制作に係る技術支援
◆教員へのノウハウ提供

教員へのノウハウ提供に関しては、すでに制作されている「ティーチャーズガイド」を用いた説明会を行い、事業意義やアニメ産業がもつ教育的価値についての理解促進を目指す。

4−3. 教員向けサポート施策

授業実施サポートと併せ、教員向けのサポート施策も継続して行う。今年度までの取組の中から見えてきた成果として、教員自身がアニメ産業やアニメについて理解を深めることで、子供たちにどのような指導が必要なのかが明確になり、さらにはゲスト講師との良好な連携にもつながっていくことが挙げられる。その結果、学習効果の高い学びの場を提供することができており、キャリア教育アワード等受賞における評価ポイントの一つには、この点があったと考えられる。

平成25年度の具体的なサポート施策としては、以下のようなものが考えられる。

◆教育プログラムについての理解を深める説明会

授業実施に興味がある、あるいは実施を希望する学校や教員を対象に、本事業についての説明会を実施し、理解を深めるきっかけとする。

◆指導計画立案のためのサポート研修会

サポート希望の申込（エントリー）を行った学校・教員を対象に開催する。アニメ産業の概況理解・アニメ制作のプロセスや制作体験を通し、アニメ産業のどのような価値を教育資源として活かすか、教員自身が必要な指導計画のイメージをもてるようサポートを行う。

◆映像資料による授業イメージの理解向上

これまでに実施された授業の様子を撮影した映像をもとに、事業および教育プログラムのイメージを伝える映像資料を制作し、教員の授業イメージの理解向上に寄与する。

4−4. アニメ産業界向けサポート施策

平成25年度の授業に協力いただくゲスト講師は、目標数を12名程度とする。

学校における授業実施希望が増える中、ゲスト講師等の協力者の開拓・拡大は最大の課題である。新規で依頼されるゲスト講師にとって不安な点として、「事前に準備する内容が分

からないこと」「授業の様子が分からないこと」が挙げられた。

そのため、今年度制作した「アニメ産業界向けガイド」や、これまでの授業の様子を編集した映像資料（教員向けサポートと同じもの）を活用し、あらかじめ授業の様子や児童・生徒のイメージをもってもらうことで、ゲスト講師が協力しやすい環境づくりに取り組む。

平成25年度は以上のような展開を軸におきながら、今後この事業を継続し定着させていくために、引き続き保護者や地域住民をはじめとした区民に対して、事業意義の理解促進を図っていく。

※参考

●練馬区長期計画　後期実施計画（平成24～26年度）

26年度目標	23年度末 実績見込み	今後の 必要事業量	年度別計画			
			24年度	25年度	26年度	合計
アニメ産業と 教育の連携 事業の実施	検証授業実施 （10校）	新規の 教育活動実施 （15校）	教育活動実施 （5校）	教育活動実施 （5校）	教育活動実施 （5校）	新規の 教育活動実施 （15校）

【資料】各学校の実施状況　※実施日は講師による授業を行った日　※敬称略

（1）小学校

①総合的な学習の時間

学校名	石神井東小学校				
実施日	11月16日（金）・12月4日（火）・1月12日（土）				
担当教員	酒井俊太朗				
科目	総合的な学習の時間	講師	有原誠治（元虫プロダクション）		
学年	6年生	人数	53名	時間数	17時間
授業のねらい	●地域にある産業についての理解を深める。 ●役割を担う責任感を実感する。 ●他者との協調性を身に付ける。				

※授業を通して完成したアニメ作品はアヌシー市へ届けられた。

学校名	石神井東小学校				
実施日	1月16日（水）・2月13日（水）				
担当教員	稲村望・小田典生				
科目	総合的な学習の時間	講師	有原誠治（元虫プロダクション）		
学年	5年生	人数	68名	時間数	10時間
授業のねらい	●地域産業に興味を持つ。 ●プロとの出会いを通して自分の生き方について考える。				

※授業を通して完成したアニメ作品はアヌシー市へ届けられた。

学校名	石神井東小学校				
実施日	11月15日（木）				
担当教員	世取山喜代子・下地亮平				
科目	総合的な学習の時間	講師	スタジオ見学（東映アニメーション） 遊佐かずしげ（メビウス・トーン） 村松錦三郎（元虫プロダクション）		
学年	3年生	人数	64名	時間数	7時間
授業のねらい	●自ら課題を設定し、調べ、発表することを通して、練馬のアニメ産業・アニメの仕事についての理解を深める。				

学校名	大泉西小学校				
実施日	11月1日（木）				
担当教員	前村章太				
科目	総合的な学習の時間	講師	遊佐かずしげ（メビウス・トーン）		
学年	6年生	人数	72名	時間数	15時間
授業のねらい	●事実等を正確に理解し、他者に適切に分かりやすく伝える力を身に付ける。 ●考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させる体験をする。				

学校名	東京学芸大学附属大泉小学校				
実施日	11月26日（月）				
担当教員	森田信子				
科目	総合的な学習の時間	講師	スタジオ見学（東映アニメーション） 平松岳史（動画工房）		
学年	4年生～5年生	人数	20名	時間数	22時間
授業のねらい	●アニメ文化を再発見する。 ●相手意識・責任感・国際理解を培う。				

※授業を通して完成したアニメ作品はアヌシー市へ届けられた。

②図画工作

学校名	大泉小学校				
実施日	7月15日（土）・9月19日（水）				
担当教員	和久井智洋				
科目	図画工作科	講師	青山充（東映アニメーション）		
学年	5年生	人数	64名	時間数	15時間
授業のねらい	●地域への理解と愛着を深める。 ●表現を通じてアニメーションの仕組みを理解し、協力して作るよさを体験する。				

③クラブ活動

学校名	早宮小学校				
実施日	1月24日（木）				
担当教員	長谷川まさみ				
科目	クラブ活動	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	5年生	人数	95名	時間数	7時間
授業のねらい	●表現力、創造力を重視する。 ●産業に対して理解を育む。 ●アニメ制作を作品完成まで体験させる。				

学校名	田柄第二小学校				
実施日	3月4日（月）				
担当教員	杉山省子				
科目	図書・マンガクラブ活動	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	4年生～6年生	人数	30名	時間数	1時間
授業のねらい	●「簡単なアニメでもコツコツやれば作品となる」というような、自分たちでもできる感覚をもたせる。 ●昨年度の実施から、新しい内容も加える。				

学校名	関町北小学校				
実施日	10月22日（月）・12月25日（月）				
担当教員	藤江恵子				
科目	クラブ活動	講師	遊佐かずしげ（メビウス・トーン）		
学年	4年生～6年生	人数	30名	時間数	2時間
授業のねらい	●動くおもしろさを知る。 ●作る楽しさを知る。				

学校名	下石神井小学校				
実施日	11月12日（月）				
担当教員	今泉尚敏				
科目	マンガクラブ	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	4年生～6年生	人数	16名	時間数	1時間
授業のねらい	●アニメの制作工程、アニメーターの仕事を理解する。 ●制作体験をメインに、絵の描き方、動かし方を理解する。				

学校名	谷原小学校				
実施日	10月29日（月）・12月17日（月）				
担当教員	副校長：大野正人・須佐陽子				
科目	マンガクラブ	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	4年生～6年生	人数	20名	時間数	2時間
授業のねらい	●子供のオリジナルキャラクターを使ってアニメーションを作る。 ●一人ずつオリジナル作品を完成させ、達成感を得る。				

学校名	大泉東小学校				
実施日	9月14日（金）・10月5日（金）・10月22日（日）・11月19日（月）				
担当教員	内村弘毅				
科目	絵画マンガクラブ	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	4年生～6年生	人数	21名	時間数	8時間
授業のねらい	●生徒のアイデアを生かしたアニメーションを作る。 ●昨年の授業で実施したものと同様レベルの成果物を完成させる。				

学校名	大泉北小学校				
実施日	1月28日（土）				
担当教員	佐藤章子				
科目	図書・マンガクラブ活動	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	4年生～6年生	人数	32名	時間数	1時間
授業のねらい	●絵が動く仕組みを教えて、アニメーションへの興味を喚起し、理解を深める。 ●実際に絵を動かす体験をさせて、動かす喜びを知る。				

学校名	大泉学園小学校				
実施日	9月10日（月）				
担当教員	鈴木多恵子				
科目	絵画マンガクラブ	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	4年生～6年生	人数	10名	時間数	6時間
授業のねらい	●アニメーション制作について実際に動画を作画しながら学ぶ。 ●映像の完成まで体験させる。				

学校名	南田中小学校				
実施日	9月18日（火）				
担当教員	副校長：遠田公博・加藤直子				
科目	マンガクラブ活動	講師	神谷友美・北條真純（アニメスポット）		
学年	4年生～6年生	人数	16名	時間数	1時間
授業のねらい	●制作体験をメインに、絵の描き方を学ぶ。 ●年間の指針になるような軸を作る。				

学校名	小中一貫教育校大泉桜学園				
実施日	12月20日（木）				
担当教員	稲江悠里				
科目	マンガ・イラストクラブ活動	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	4年生～6年生	人数	13名	時間数	1時間
授業のねらい	●プロの方が実際に「描いているところ」を見て学ぶ。				

（2）中学校

①総合的な学習の時間

学校名	光が丘第一中学校				
実施日	6月				
担当教員	副校長：齋藤実				
科目	総合的な学習の時間	講師	遊佐かずしげ（メビウス・トーン）		
学年	1年生～3年生	人数	30名	時間数	2時間
授業のねらい	●専門的な知識や技術について体験的な学習をする。				

②部活動

学校名	小中一貫教育校大泉桜学園				
実施日	10月15日（月）				
担当教員	豊崎恵美				
科目	美術部	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	5年生～8年生	人数	13名	時間数	1時間
授業のねらい	●学校のPRをするCMのようなアニメを作る。				

学校名	豊渓中学校				
実施日	9月27日（木）				
担当教員	藤木真理子				
科目	美術部	講師	森山博幸（R．I．C）		
学年	1年生～3年生	人数	11名	時間数	1時間
授業のねらい	●学校のCMになるようなものを作り活動の成果を感じる。				

学校名	石神井中学校				
実施日	3月12日（月）				
担当教員	中坪崇敏				
科目	アート部	講師	平松岳史（動画工房）		
学年	1年生～3年生	人数	24名	時間数	3時間
授業のねらい	●作品を完成させるところまで体験させる。 ●新入生勧誘の時に作成した動画を流す。				

学校名	大泉第二中学校				
実施日	1月22日（火）				
担当教員	高村輝美				
科目	美術部	講師	堀川和政（東映アニメーション）		
学年	1年生～2年生	人数	10名	時間数	1時間
授業のねらい	●美術部のHPにキャラクターを使ったアニメを掲載する。 ●ストーリーの作り方、絵の動かし方について学ぶ。				

練馬区「アニメ産業と教育の連携事業」推進報告書
平成25年3月

練馬区区民生活事業本部産業経済部商工観光課
練馬区教育委員会事務局教育振興部教育指導課

【事務局】商工観光課アニメ産業振興係
〒176－8501　東京都練馬区豊玉北6丁目12番1号
TEL　03－5984－1276(直通)

文化庁 AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS 平成24年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ